

資料2 別添1

各地域包括ケア推進会議における論点

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること			
明第1 地域包括支援センター	11月24日	町会	3	医師	3	ケアマネ	2	各地域の現状把握と取組～社会と接点の乏しい方を支えるために～	ア	○各地域の現状把握を行い、地域の特性に応じた孤立対策を考える。	○不衛生な環境で暮らす夫妻の生活の質を高める。	○社会との接点が少ない高齢者の把握のため、近隣の商店・宅配業者など地域住民との関係作りや連携が大切。見守り、ネットワークを地域レベルで構築する。	○民生児童委員、商店や宅配業者へアンケートを実施、集計した結果を共有。 ○地域情報や困りごとの相談先の周知のため、回覧板・掲示板・ニュースレターなど活用する。	○町会未加入者、転入者など、社会との接点が少ない高齢者の把握、支援体制の構築。
		地区社協	2	歯科医師	1	介護事業者								
		市社協		薬剤師	1	通所介護								
		健康推進員	3	保健師	1	訪問介護								
		ボランティア		作業療法士		訪問看護	1							
		二層ワゴン	1	医療相談員		地域包括	6							
		生活支援CO	1	理学療法士		市役所	1							
		NPO協議会		警察		グループホーム	1							
		民間企業	1	消防		小規模多機能								
		商店	3			合計	31							
明第2 西地域包括支援センター	11月9日	町会		医師	1	ケアマネ	5	成年後見制度の理解と活用	ア	成年後見制度についての理解が、市民にも介護・医療従事者に行き届いていないために、活用が不十分	認知症夫婦の金銭管理や社会的手続に関する支援について、どのタイミングで成年後見制度につながればいいのか地域包括に相談が入った。	○成年後見制度が必要な人を早期発見するために、高齢者を支援している医療・介護等の関係者が成年後見制度についての理解を高め、相談窓口と連携する。 ○地域住民にも成年後見制度についての知識・理解を普及啓発し活用を促す。	○今回の地域ケア会議で「松戸市の成年後見制度普及啓発の取り組みについて」と「成年後見人の実務」について理解を深めることができた。 ○今回の地域ケア会議で、本来は成年後見人がいたほうが良いと思われるが、制度につながっていない高齢者が地域内にいることを確認できた。 ○認知症高齢者の生活を支えるために、今後更に、医療介護関係機関と成年後見人が連携を高める。	○成年後見制度の理解促進 ○認知症高齢者数の増加に見合った成年後見人材の確保 ○成年後見人が孤立しないような施策（メンタルヘルスクア含む） ○ケアマネや訪問ヘルパーによる利用者の金銭管理支援を実態把握し、成年後見制度につなぐべき事例がないかチェックする
		地区社協		歯科医師	2	介護事業者								
		市社協	1	薬剤師	2	通所介護	2							
		民生委員		看護師		訪問介護								
		ボランティア		作業療法士	1	訪問看護								
		高支連		医療相談員		地域包括	6							
		生活支援CO	1	理学療法士	1	市役所	2							
				警察		特別養護老人ホーム	1							
				消防		認知症グループホーム	1							
						合計	26							
								イ	医療・介護関係者を含めた第三者が、成年後見人の実務実態を知る機会が少ない					
								ウ	金銭管理ができない認知症高齢者はどうやって生活しているのか実態が分からない。					

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
明第2 東地域 包括支 援セン ター	11月16日	町会	2	医師		ケアマネ	2	マンションの孤 独死問題につ いて	ア 住民同士の横のつな がりをつくるために は イ 安全確保・安否確 認、異常の早期発見 するための事業の活 用を促進するため には ウ 緊急時に備えるために把 握しておいたほうが良い 内容はどのようなもの か、また、連絡体制を確 率させる方法としてど のようなものが考えられ るか	○声掛けのボランティア等 を集い住民同士の安否確認体制 をつくる ○集会所などを利用し住民同 士が交流するイベントを計画 する ○大腿骨骨折とコロナ感 染を併発し入院するもリ ハビリを行わず自宅に戻 ることになった事例。 ○理解力が乏しい高齢者 に配偶者が能力以上の自 立支援や自己決定を求め ている事例。	○定期的にマンション内で理 事会等を実施し、独居や高 齢者夫婦で生活状況に変化があ りそうな世帯の情報を共有し ている。今後も管理人も含め てそういった情報共有を行っ ていく	○市で開催するイベントの 充実化	
		地区社協		歯科医師		2	介護事業者						
		市社協		薬剤師		2	通所介護						2
		民生委員	2	看護師			訪問介護						
		ボランティア		作業療法士			訪問看護						
		高支連		医療相談員		2	地域包括						5
		生活支 援CO		理学療法士			市役所						1
		市民活動サ ポートセン ター	1	警察			特別養護老 人ホーム						
		他の包 括職員	2	消防			小規模多機 能						
		圏域内マン ション理事	1				合計						22
本庁地 域包括 支援セ ンター	11月30日	町会	1	医師		3	ケアマネ	3	ア コロナウィルス感染 症の拡大による、面 会・外出等の制限か ら、本人の現状につ いて適切な情報共有 が図りづらい。 イ 直接本人と会えない ことで、意思確認が できず、家族の受け 入れや退院調整が進 まない	○入院中の面会や外出等 の制限から、本人の状態 把握が難しく、家族が在 宅介護へ不安を抱え退院 調整が進まない事例。	○VRやオンライン等、今あ るITの使い方をそれぞれの 立場で工夫・協力して情報共 有を図る。 ○入院した段階から密に情報 共有を図り、本人の状態変 化を把握。	○ITを活用し、手法を工夫 しながら、情報の精度と共有 頻度を上げていく。 ○入院早期からこまめに情報 共有を図り、本人の状態変 化を把握しながら、予測を立て る。	○IT活用の推進 ○効率的な情報共有が図れ るシステムづくり。
		地区社協		歯科医師			介護事業者						
		市社協		薬剤師		2	通所介護						
		民生委員	1	看護師			福祉用具	1					
		ボランティア		作業療法士		1	訪問看護	1					
		高支連		医療相談員		2	地域包括	5					
		生活支 援CO	1	理学療法士			市役所	1					
				しづなるあ いす		1	特別養護老 人ホーム						
							小規模多機 能						
							合計	23					

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
矢切地域包括支援センター	11月25日	町会	1 医師	1 ケアマネ	0	ヤングケアラーを通して考える矢切地区の共生について	ヤングケアラーに関する普及啓発と情報共有が必要。	矢切地区に実際あるヤングケアラー事例を通してその課題や支援について共有する。	まずは関わる接点を持つことが大切。関わる中で必要な支援に関して連携が必要。また活用できる社会資源についても知ることが大切	高齢者だけ、子どもだけではなく地域として関わり続けながら支援が必要な場合は早期に支援機関につなぎ、多様な課題について関わる人を増やす。		
		地区社協	0 歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1 薬剤師	1	通所介護							2
		民生委員	0 看護師	0	福祉用具							1
		ボランティア	作業療法士	1	訪問看護							1
		高支連	0 医療相談員	0	地域包括							5
		生活支援CO	0 理学療法士	0	市役所							1
			保健師	0	まつどNPO							1
		オレンジ協力	0 有識者	1	市民サポーター							0
		特養	0		合計							18
東部地域包括支援センター	9月20日	町会	医師	2 ケアマネ	2	支援を要する若年層の方々の地域での生活を支えるために、既存の社会資源も含め、地域にどのような社会資源があれば、生活が成り立つのか。	50代、脳出血後遺症で右半身麻痺。配偶者と子の3人暮らし。その他子が3人いる。家族関係は良好だが、家族から服薬管理等の支援は得られていない。本人は希望している生活はあるが、介護サービスは拒否している。	○支援が必要な若年層の方の実態把握が難しいため、民生委員や高支連の相談員からの情報を地域包括が共有し、地域の見守り組織と関係機関が連携して把握していく。 ○若年層の方が利用できる社会資源として、既存の子ども食堂は多世代の方が利用できる。若年層の方が気軽に来られる居場所として周知していく。	○既存の社会資源を、支援を必要とする若年層の方が利用出来るように整備して、周知し利用に繋げる。 ○グリーンスローモビリティを活用して、移動目的からの交流の場としての社会資源としての活用を考えていく。ピアサポートや当事者同士の交流の場として活用していく。 ○子ども食堂を多世代交流の社会資源として活用していく。	○社会資源として、急性期・回復期の医療機関退院後に、職場復帰や就労支援をするため、リハビリ等の二次的な支援をする機関が必要。		
		地区社協	歯科医師		介護事業者							
		市社協	薬剤師		通所介護							
		民生委員	看護師	1	訪問介護							
		ボランティア	作業療法士		訪問看護							
		高支連	1 医療相談員		地域包括							2
		生活支援CO	1 理学療法士	1	市役所							2
			警察		特別養護老人ホーム							
			消防		小規模多機能							
			中核地域生活支援セン	1	合計							13

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者					議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること
常盤平 地域包括 支援セ ンター	11月17日	町会	3	医師	1	ケアマネ	7	地域の見守りに ついて、色々な 立場で考える (自助互助共助 公助について)	〇度々支援を求めて苦情 を訴えるが、サービスの 利用を勧めると拒否や中 断してしまう独居高齢者 方。	〇傾聴し、自身で解決しても らうよう働きかける 〇近所との関係が良いため、 相談先を地域の方からお知ら せいただく 〇栄養士の栄養指導を活用し てみる 〇子ども食堂などにきてでき れば手伝ってもらう	〇近隣住民として挨拶や声掛 け、親睦をはかる 〇見守りを行う地域資源を探 す他、作ることも検討 〇地域の行事や子ども食堂な どに誘う 〇在宅医療・介護連携セン ターの管理栄養士の栄養指導 を活用してみる	〇見守りを行う地域資源の 開発 〇みまもりサービス企業へ の働きかけ 〇病識の欠如や受診中断し ている高齢者宅に保健師が 訪問する 〇介護保険以外に高齢者の 食事や集いの場所作りや訪 問栄養指導
		地区社協	1	歯科医師	0	介護事業者						
		市社協	0	薬剤師	1	通所介護	2					
		民生委員	0	保健師	1	福祉用具	2					
		ボランティア	作業療法士		1	訪問看護	1					
		高支連	2	医療相談員	2	地域包括	4					
		生活支 援CO	0			市役所	0					
						特別養護老 人ホーム	1					
						商店	2					
						合計	36					
常盤平 団地地 域包括 支援セ ンター	10月6日	町会	1	医師	1	ケアマネ	5	介護保険サービス外 で生活困窮の方が金 銭負担を最小限に移 動出来る方法	一人で通院することが出 来ない人が経済的な負担 を最小限にして通院でき る方法はないか	〇市社協、NPO等の有償ボ ランティア 〇地区社協ホームヘルプサー ビス 〇市社協ふれあいサービス 〇UR 社協見守りサービス 〇サークル活動	周知活動の一環としてイベ ント等を開催	対応できる事業所の拡充
		地区社協	1	歯科医師		介護事業者						
		市社協	1	薬剤師	1	訪問介護						
		民生委員		看護師		訪問看護	1					
		ボランティア	作業療法士		1	福祉用具	1					
		高支連		医療相談員		地域包括	4					
		生活支 援CO	1	理学療法士		市役所	1					
				行政書士		特別養護老 人ホーム						
				その他	2	小規模多機 能						
				傍聴・見学	8	合計	29					
						生活が困窮して いる高齢者につ いての移動支援 と成年後見制度 の活用について	成年後見、権利擁護 等各種普及啓発とし てセミナー等を開催 する上で集客力向上 の為に効果的な具体 策	〇家族協力が不可な生活 困窮者を病院や施設に迷 惑かけずに成年後見に繋 げる方法の検討事例 〇緊急入院した認知症高 齢者を成年後見に繋ぐ手 法	〇URの掲示板、イベントの 活用 〇商店、病院待合室等への掲 示 〇介護事業所から直接利用者 にチラシ配布	〇チラシに頼らずイベント等 で対面広告 〇プレゼントやクーポンなど インセンティブを付ける 〇スタンプラリー（盛り上げ りは過去に実証済み）	成年後見申立て中の本人財 産の利用の検討、また、申 立て中に施設入所に至った 場合の不要自宅家賃の保護	

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者					議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
五香松 飛台地 域包括 支援セ ンター	11月17日	町会	医師	1	ケアマネ	7	地域包括ケアシ ステムの構築に ついて	ア	認知症高齢者を介護して いる配偶者が共に施設入 所したが、入所後ほどな く配偶者の自傷行為がみ られた。ケアマネとして 家族をどこまでアッセメ ントするか？	ご近所の関係性が希薄で地域 にどんな方が住んでいるか顔 が見えてこない。	地域の方に「権利擁護」の研 修を行う。		
		地区社協	3	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護							
		民生委員	2	看護師		訪問介護							
		ボランティア	常盤平基幹	1	訪問看護	1							
		高支連	3	管理栄養士	1	地域包括		5					
		生活支 援CO		理学療法士	1	市役所		1					
		まつど NPO	1	学校長	2	特別養護老 人ホーム		1					
		健康推進課		小規模多機 能									
		その他	1	合計	34								
六実六 高台地 域包括 支援セ ンター	11月16日	町会	2	医師		ケアマネ	5	ア	〇ゴミ出し・分別に ついて、困難を抱え る高齢者に対して、 それぞれの立場で、 自分ができそうなこ とははないか。	〇認知症がある独居の方 のお金の管理について。	〇イラストで分かりやすいゴ ミ出し表を作成する。 〇ゴミ出しアプリを周知す る。 〇集積所に残ったゴミは環境 業務課に相談できることを周 知する。	〇イラストで分かりやすいゴ ミ出し表を作成する。 〇ゴミ出しアプリを周知す る。 〇集積所に残ったゴミは環境 業務課に相談できることを周 知する。	〇ゴミ出しの時間を見直 す。 〇ゴミ焼却炉を新しくす る。 〇ゴミの分別を少なくす る。 〇高齢者にも使いやすいAI 音声サービスを導入する。
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協		薬剤師		通所介護	1						
		民生委員	1	看護師		訪問介護	1						
		ボランティア	作業療法士		訪問看護								
		高支連	1	医療相談員		地域包括	4						
		老人会		理学療法士	1	市役所	1						
		生活支 援CO	1	警察		特別養護老 人ホーム	1						
				消防		グループ ホーム	1						
				その他	1	合計	23						

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
小金原 地域包括 支援 センター	11月21日	町会	17	医師	2	ケアマネ	3	健康な私たちが、「少し元気のなくなった黄色信号の私はどう考える」かを、相手の立場に立ち、考える事から気づきを見出せるか。	〇本人が、意欲を持って行動を開始しても、坂道や歩道事情により、外出の制限がある。 〇老々、独居。本人の疾患や疾患を持つ子との世帯等あり、地域との関係が希薄になっている。更に、体力・意欲低下になるケースが見られる。	銀行とURコミュニティが参加。地域での取り組みの紹介。町会・自治会長も、まつどDEつながるステーションはじめ共生社会に向けて、地域で取り組む力が必要であると再認識し、これらの活動を多くの住民にも広げる。	〇出張包括やパトワークを町会・自治会と行い、つながりを強化する。 〇まつどDEつながるステーション、2層ワーキングに参加し住民や専門職・多世代の交流を盛んに行うことで、地域共生の視点が多くの住民へ浸透していく	さまざま人が暮らしている中、偏見を持たない・決めつけしないで、お互いに尊重しあいながらのまちづくりの周知活動	
		地区社協		歯科医師			介護事業者						
		市社協		薬剤師			通所介護						
		民生委員	1	保健師			訪問介護						
		ボランティア		作業療法士	1		訪問看護						1
		高支連	1	スクールソーシャルワーカー	1	地域包括							6
		生活支援CO	1	理学療法士		市役所							2
		オレンシ協力員	1	UR	3	傍聴・包括							1
		MSW	1	銀行	3	小金基幹おんぶ							1
				活動団体	2	合計							48
新松戸 地域包括 支援 センター	11月17日	町会		医師	1	ケアマネ	2	〇消費者被害が増えているが、羞恥心や認知機能低下、周囲が気が付かない等により、タイムリーな相談につながらず解決が難しい 〇一度消費者被害にあつたターゲットになり、繰り返し消費者被害にあつてしまう 〇消費者被害に対する正しい知識がない（受取拒否や返品が可能）	認知症の夫と認知症が疑われる本人の夫婦2人暮らし。消費者被害に何度もあつているケース。	〇消費者被害に対する正しい知識の普及活動を行う 〇家族にも被害や被害にあつた本人への接し方を理解してもらおう 〇消費者被害防止のための電話機や勧誘お断りステッカー等のグッズを活用する 〇支援者が訪問時に観察し、消費者被害にあつていないか観察する、アンテナを高く持つ 〇消費者被害が起きたら地域包括に相談してもらい、必要な支援機関に繋ぐ 〇行政・事業所・警察等の連携を図る	〇地域包括主催の教室などが集まった時に、荷物が届いても返品できるなど消費者被害の知識普及や、消費者被害防止のための情報提供・周知活動を行う 〇支援者は訪問時に観察力を発揮し、消費者被害の早期発見に努める 〇消費者被害についての相談があつた際は、必要に応じて医療・介護へも繋げる。	〇行政、警察、地域、本人・家族、事業者など必要機関との連携強化 〇消費者被害対応マニュアル・体制整備	
		地区社協		歯科医師	1		介護事業者						
		市社協		薬剤師	1		通所介護						
		民生委員	3	看護師			訪問介護						
		ボランティア		作業療法士			訪問看護						1
		高支連(重複)		医療相談員	1	地域包括							3
		生活支援CO	1	理学療法士		市役所							1
		配達業者	3	警察		特別養護老人ホーム							
				消防		小規模多機能							
		保健師	1	言語聴覚士	1	合計							20

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること			
馬橋西 地域包括 支援セ ンター	11月25日	民生委員	2	医師	1	ケアマネ	3	多問題世帯、家 族関係が希薄、 連絡がとれない 家族	ア	○家族関係が希薄で 家族と連絡がとれな かったり、とれても 理解不足で支援が進 みにくい。	○家族と連絡がとれず、 中々サービスが利用でき ない。 家族と支援者間の温度差 がある。	○支援者間、家族、本人との 情報共有。 ○支援者間での顔の見える関 係性作り。	○一人の方を誰が支援してい るか等を分かる様にする統一 した情報共有シート（ノー ト）の作成と活用。	
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者								
		市社協	1	薬剤師	2	通所介護								
		ボランティア		言語聴覚士	1	訪問看護								
		高支連		医療相談員		地域包括	3							
		生活支 援CO		理学療法士		市役所	2							
				警察		特別養護老 人ホーム								
				消防		小規模多機 能								
		生活支援 CO	1	合計	16									
馬橋地 域包括 支援セ ンター	11月10日	町会		医師	1	ケアマネ	1	災害時の備えが できる地域力を 強める為、日頃 から地域住民が 取り組むべき普 及啓発とは	ア	「災害時に協力し合 える世代を超えた関 係づくり」 ～災害時に備えて日 頃からの地域づく り、お互いに顔の 見える関係づくり～	○馬橋地区で行った多世 代食堂を踏まえての、今 後の課題 ○地域住民同士の関係性 を築くための活動につ いて	○多世代食堂の参加しなかつ た層に対してのアプローチを 考えていく必要がある。 ○市で行っている、既存の企 画とも連携できるとよい。 ○地域住民が体験できるイベ ントがあるとよい。	○地域で行っている活動を継 続していく。多世代食堂を継 続して行っていける方法を検 討する。 ○地域のボランティアや民生 委員を中心に、地域住民への 啓発活動を継続していく。	○幅広い層へのアプローチ として、市が企画している イベントとの連携も検討し ていく。 ○地域の住民が防災の意識 を持てるようなイベントも 企画していく。
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者								
		市社協		薬剤師	1	通所介護								
		民生委員	2	看護師		訪問介護								
		ボランティア		作業療法士	1	訪問看護								
		高支連		医療相談員		地域包括	4							
		生活支 援CO	1	管理栄養士	1	市役所	2							
				警察		グループ ホーム	1							
		消防		小規模多機 能	1									
				合計	19									